

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291500047		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホームあかね雲		
所在地	千葉県茂原市茂原541番地17		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、個々の利用者様が得意とされるものに携わり、日々メリハリのある生活を提供している。四季折々の行事に参加するなど、外出活動に力を入れている。 ・散歩や買い物など、利用者様の状態や体調を考慮して、一人ひとりのペースで生活を送って頂いている。 ・ボランティアなどを受け入れ、様々な人と接して頂く機会を増やしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>最寄駅のJR茂原駅南口から、商店街を通り徒歩で10分足らず、近所に、和菓子店、コンビニ、豆腐屋、小学校などがあり生活感が溢れ、訪問や買い物に便利なホームです。</p> <p>基本理念「自然とのふれあい、地域の人々との交流を大切にします」を掲げ、管理者や職員は、平均年齢87歳を超える利用者、常に寄り添い利用者の立場に立った介護を提供しています。地域行事(七夕祭りや、秋祭り、運動会、お寺への初詣や豆まきなど)にも積極的に参加し、自治会や家族との関係も良好で地域の交流も定着しています。利用者一人ひとりに名札(首から下げるタイプ)を作り、表には名前やホーム名と電話番号を記入、裏面には主治医の病院名と電話番号を記入し、緊急時に素早く対応できるよう工夫しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人々とのふれあいを大切にし、自分らしさを持って、ゆったりとした生活のリズムの中で生活すること」を理念の中心にしている。	運営法人の理念とホーム独自の基本理念「自然とのふれあい、地域の人々との交流を大切にします」をリビング中央に掲示し、月1回のカンファレンスの中で、職員と確認・共有し、地域の交流と利用者本位の生活が送れるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭などの法人イベントで地域と交流し、また外部イベントにも積極的に参加している。	自治会に加入し、秋祭りでは、職員が神輿を担いだり、納涼祭や七夕祭り、小学校の運動会などにも積極的に参加しています。避難訓練も自治会と合同で行う等地域の人たちとの交流も進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合等に参加し、地域の方々に説明し、支援いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で検討されたことを事業所の取り組みに活かしサービスの向上に努めている。また過去の取り組みに関しても、改善できるような意見を聞いている。	地域包括支援センター、自治会関係者3名、家族、職員で年6回開催しています。会議では、行事予定や、外部評価報告、避難訓練等について話し合い、忌憚のない意見を運営に反映しています。自治会からは行事の参加呼びかけなどもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業に関する相談など連絡を密に取っている。管理者または本部事務所で情報交換を行っているため、連絡事項や活動状況は、共有できている。	市の担当課については、その都度連絡し相談に乗って貰っています。運営推進会議に、地域包括支援センターの出席があり、密接な協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の生活を尊重し、職員同士で話し合い、ケアに努めている。	身体拘束廃止を謳い、職員は法人の研修はじめ外部研修にも積極的に参加しています。管理者が拘束排除の徹底を図り職員も理解するように努めています。玄関は原則施錠せず、利用者を尊重し見守りにつとめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待の無い介護に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で権利擁護に関する制度を理解し、活用し支援できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を実施している。契約は必ず書面で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議に参加していただいた時に、意見や要望を伺い運営に活かしている。その情報を法人全体で共有している。	家族の来訪時や運営推進会議、各種行事開催時に、意見・要望を聴き運営に反映するようにしています。利用者については、日頃の触れあいの中から思いや願いを尊重し対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフトや休暇、休憩の取り方など職員各自に意見を聞き、運営に取り入れている。	管理者は、月1回のカンファレンスや普段の対応の中で意見・提案を聴き運営に反映させています。また施設長は年1回個人面談を実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課表を作成し、自己評価・管理者評価・施設長評価を行なっている。その際、必ず施設長との面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でのケア向上を図り、各自の力量を把握した上で外部研修へ参加する機会を持つようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等により、交流機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅での生活の経緯を考慮し、本人と家族の不安な事、要望に耳を傾け安心して生活が出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し、不安を解消できるようなサービスを提供することで、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を検討している段階での話し合いにおいて、現在困っている事柄を聴取し、最も適したサービスについて情報提供や協力の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の方に応じた作業を一緒に行うことで、暮らしを共にする家族のような関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、サービス利用の際、ご本人をよく知る人間として協力していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎ等行い、交流がとれるようにしている。また、ご家族様と外出ができるよう、配慮している。	面会に行きやすい雰囲気があります。親戚の人、家族がお孫さんやひ孫さんと一緒に面会に来る時もあり、利用者の喜びとなっています。元会社で一緒に働いていた人や、近所の友人が来訪することもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動を理解した上で、利用者同士が支え合える関係ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡した家族との関係は途切れているが、写真等を飾るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士の会話に入り、希望を聞き取れるようにしたり、個人的にも希望を伺っている。ご家族様にも意見を伺う。	パンの方が好きな利用者に対しては毎朝パン食にして、利用者ニーズに応えています。本人の意向把握が困難な人は、表情やしぐさから判断したり、職員間で気づいたことを共有し、本人本位の対応に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取り、家族やケアマネジャーからの情報収集を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で有する能力を見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の今までの生活を考慮し、その人らしい生活が送れるよう、職員個人で考えるのではなく、職員が話し合っって現在の必要な介護に反映できるように計画を作成している。	計画は、計画作成担当者が中心になり、本人や家族の意向を尊重し、医師や訪問マッサージ師、職員と話し合い作成しています。2、3か月に一回モニタリングを行い、支援に活かしています。退院時や体調変化時等には、随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を作成している。介護記録を活かし、情報を共有して、モニタリングに活かしている。支援ノートを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の意見を傾聴し、問題点があれば、柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物の参加や買い物、保育園、中学校等の子供たちと触れ合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望により、医療機関への受診の支援を行っている。また、提携医療機関では定期的な往診といつでも電話相談をとれる体制になっている。	内科医が月2回、往診に来訪しています。ホームのケアマネージャーが看護師の資格を持っているので、利用者の健康管理・維持が適切に行われています。訪問歯科は月1回来訪し、必要に応じて義歯の調整や口腔ケアを行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態、情報、気づきを伝え指示を受ける。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、必要時には介護サマリーを記入し、情報提供をしている。面会に定期的に行き利用者ご本人やご家族が安心できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、ご家族を含め主治医・看護師と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組んでいる。	医師から終末期宣言を受けた時点で、家族と看取りに関する同意書を交わしています。現在、重度化した利用者があるので、訪問看護師が毎日のように来訪し、必要なケア(経管栄養等)に努めています。夜勤の職員は、重度化した利用者に変化があった場合には、看護師であるケアマネージャーに連絡する体制が整備されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には24時間主治医と連絡が取れる体制を整えている。事故発生時はマニュアルに添って訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定または大規模地震を想定した避難訓練を実施し、全職員が常に意識している。また、運営推進会議でも地域の方にも協力を常に依頼している。	年2回消防署立会いと、自治会と合同で避難所までの避難訓練(夜間想定を含め)を実施しています。スプリンクラー、消火器、通報装置等必要な防火設備は整っています。連絡網も掲示され、備蓄も7日分確保されています。	高齢化や重度化した利用者があるので、様々な災害(火災・地震・水害等)に備えるために、職員(特に夜勤者)が不安なく対処できるように、対応手順を再度話し合っておくことが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが守れるよう常に意識し、他者様への配慮も行っている。個人名が入った書類は特に気を配り、管理している。	トイレや入浴時には戸を閉める等、羞恥心に配慮しています。トイレ誘導で車椅子から便座に移乗する時に、「痛い」という人になるべく痛くないようにする等、慎重に対応をしています。管理者は、職員が利用者に対して不適切な言葉使いがあった時は、都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を選択できるような声掛けをするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「～したい」という気持ちを大切に、希望に添う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご本人の意向で着替えを行い、整容後、手鏡でご自分の姿を確認されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	例えば、利用者様に合わせて豆腐を一品足すなど工夫をしている。食事の準備では、できるだけ利用者様に手伝っていただく。	食前に誤嚥予防の体操を行っています。利用者の希望するお寿司やお弁当の購入を月に1回程度提供し、食事を楽しめる支援に努めています。また必要に応じて刻み・ミキサー食・トロミをつける等の配慮をしています。家庭菜園で利用者さんと収穫した野菜を味噌汁の具に使う場合もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、盛り付けの量や形態の調整をしたり、水分は起床時・入浴後・就寝前にも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に行っている。 ・自分で歯磨きができる方・出来ない方、声掛けによって実行できる方・出来ない方などそれぞれの方法で実施していただき確認をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄のパターンを把握し、排泄の失敗を減らし、自立に向けてトイレ誘導を行っている。	現状、利用者の多数がリハビリパンツを使用しています。パッドの使用者が、本人の自覚と職員の声かけにより失禁が減り、パッドの使用量も減った例があります。夜間でもトイレ誘導し、なるべくトイレでするよう自立支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食の工夫に取り組み、腹部のマッサージ、体操、水分摂取をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けなどを工夫し、気持ちよく入浴して頂くよう心掛けている。	原則週2回の入浴支援を、午後に行っています。バイタルチェックで問題があった場合は、翌日に延ばしたり清拭に切り替えています。たまに入浴剤を入れ、入浴が楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースのソファで自由に休憩をとって頂き、夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表を保管し、常に閲覧し、確認が出来るようになっている。調剤薬局との連携により詳しい薬の情報を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びある生活を送れるようにしている。その人の力に応じた役割を担ってもらったり、個々の希望に沿った気分転換等にも対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションでは、家族にも協力をいただき、一緒に楽しんでいただけるようにしている。	季節のよい頃には、週に2、3回、約20分散歩に出かけています。玄関前のベランダに木のベンチがあり、花を見ながら外気浴を楽しむ人もいます。初詣や節分には藻原寺へ、春には市内にあるバラ園に、紅葉狩りに茂原公園に出かける等、車での遠出を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の人以外は、個人での金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を利用したり、手紙のやり取りができるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、共用スペースを気持ちよく使用して頂けるよう、配慮している。	明るいリビング兼食堂は、清潔で広くソファが置かれ、利用者が居心地良く過ごせるように配慮されています。厨房からの匂いや音が生活感を感じさせます。壁には「北国の春」の歌詞が貼られ、曲に合わせて「あかね雲体操」を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで寛ぐなど自由に過ごして頂けるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居心地の良さを考え、親しみのある物を配置したり、上手に空間利用をするなど、配慮している。	居室は、エアコン、大型のクローゼット、介護用ベッドが備え付けで、整理が行き届いています。テレビ、椅子、テーブル、など使い慣れたものや、家族の写真など思い出のものを持ち込み、自宅に居るように過ごしています。加湿器を使用するなど室内環境にも気を付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室の入り口には名前を貼り、トイレの表示には利用者の目線で分かり易くしている。		